

令和4年度 昭和小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

（1）基本目標

国際社会の中で、日本人としての自覚を持ち、心身ともに健康で想像力に富み、豊かな情操と正しい判断力・実践力のある心豊かで、たくましく生きる児童を育成する。

（2）具体目標

心豊かで思いやりのある子 健やかでたくましい子 自ら学び自分をのばす子

《目指す児童像》 「やさしい子」 「元気な子」 「よく学ぶ子」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標の達成を目指して学校経営を進めるにあたり、児童にとって「行きたくなる学校」、保護者や地域住民にとって「行かせたい学校」、教職員にとって「勤めたい学校」、そして誰にとっても「魅力ある学校」にしたいと考える。

そのため、地域の教育資源を積極的に活用しながら創意工夫を生かして本校独自の教育活動の充実を図り、「特色ある学校づくり」を推進する。

《目指す学校像》 「活気ある学校」 「安全・安心な学校」 「地域とともにある学校」

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（1）教育活動の質の一層の向上を目指し、カリキュラム・マネジメントにより学習効果の最大化を図るとともに、本年度の重点目標等について学校と保護者、地域住民が共有できるようにしながら地域の教育力を有効に活用して特色ある教育活動を推進する。

（2）「心豊かで思いやりのある子」を育成するため、自他の生命と人権を尊重する心や思いやりの心など育む豊かな体験活動と、全教育活動を通じた道徳教育を推進する。

（3）「健やかでたくましい子」を育成するため、健康で安全な生活ができる基本的生活習慣を身に付ける指導と、体力の向上を図る教育活動を推進する。

（4）「自ら学び自分をのばす子」を育成するため、学ぶ意欲を高めながら、知識・技能を確実に身に付け、思考力・判断力・表現力を育む学習活動を推進する。

（5）全ての教職員が、倫理観と使命感をもつとともに真摯な態度で自己研鑽に努め、児童一人一人を大切にする教育活動を実践し、誰からも信頼される教職員として職務に励む。

（6）教職員が健康でいきいきとやりがいをもって勤務し、児童と向き合いながら質の高い教育が行えるよう、教職員の働き方改革の視点に立ち、職場環境改善のための取り組みを推進する。

（7）○星が丘地域学校園小中一貫教育を「自己肯定感を高めること」を最重点目標として推進するとともに、学校地域協議会との連携強化により地域とともにある学校づくりを推進する。

「星が丘地域学校園教育ビジョン」 未来を見つめ、学び続ける力の育成

4 教育課程編成の方針

（1）日本国憲法、教育基本法、学校教育法、小学校学習指導要領に示された教育の目標や内容、県・市の学校教育の重点、努力の方向に基づき、更には地域社会や児童の実態等を十分に把握し「人権尊重の教育」を基盤に、調和と統一のある教育活動を積極的に推進する。

（2）心身の発達段階や特性・子どもの育成に関わる多くの関係者の願いを考慮し「一人一人が優しさへの感性を豊かに備え、それぞれの可能性を最大限に発揮できる学校」を目指す。

（3）学習指導要領の原則を踏まえ、教育内容の質的・量的な充実を目指した学習指導を展開し基礎的・基本的な事項の定着と個に応じた学習活動の展開の充実に努める。

（4）各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間・外国語活動などの関連を図り、調和と統一のとれた編成に努める。

（5）前年度活動の評価等、地域社会の実情・児童の実態等を踏まえ、柔軟な指導の形態・指導法の工夫・教育資源（人・地域・機関等）の活用につとめ、一人一人の教育的な課題がより確かに解決が図られるよう展開を工夫する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

合言葉を《からだ元気 こころ元気 元気に学ぶ 昭和の子》として、全教職員がチーム力を高めながら活気ある学校づくりに努め、『昭和の子 元気プラン2022』を推進する。

また、地域の教育力をこれまで以上に有効に活用して特色ある教育活動を推進するとともに、学校地域協議会〈夢工房〉と一体となって、地域とともにある学校づくりを推進する。

【学 習 指 導】

～主体的・探究的・協働的に学ぶ児童の育成～

- ・ 児童が自ら考え分かりやすく表現できるようにするための授業の進め方の工夫
- ・ 基礎・基本定着のための学習タイムの実施と家庭学習の習慣化
- 夢や希望の実現に向けて努力する態度を育むためのキャリア教育の推進
- ・ よりよい授業を目指した学力調査等の結果を分析・活用した授業改善

【児 童 生 徒 指 導】

～自分を大切にし、他者もかけがえない存在として大切にできる態度・実践力の育成～

- 自己肯定感を高めるための認め励ます指導の推進
- ・ 進んで元気なあいさつができるようにするための、児童主体のあいさつ運動の促進
- ・ すべての児童が楽しく明るく生活できるようにするためのいじめゼロ運動の推進
- ・ 豊かな心を育むための地域の教育資源を生かした体験活動の実施

【健康（体力・保健・食・安全）】

～自他の命や健康の大切さを知り、健康・安全・体力の向上に心がける態度・実践力の育成～

- ・ 自分の命を守る行動力を身に付けるための、安全指導の推進
- ・ 自らの健康を管理する力を身に付けるための、保健教育と食育の推進
- ・ 進んで運動し体力を高めるための、外遊びの奨励や各種体力検定の実施
- ・ 心身のたくましさを育むための八幡山を活用した活動の実施

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す 児 童	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児 童 90%以上	① 授業において、児童が自ら考え分かりやすく表現できる学習活動を重視する。 ② 学習に関する基本的な行動様式について共通認識を図り、学年の発達段階や実態に応じた指導を繰り返す。 ③ 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業研究会や授業を相互に見合う機会を充実し、指導力の向上に努める。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は 94.7%と数値目標を上回っている。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。 ①については、児童同士の意見の交流を重視した学習活動を取り入れるように努める。

の 姿 目 指 す 児 童 の 姿	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 体験活動と関連を図った道徳科の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。 ② 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。 ③ 児童会活動や縦割り班活動など学年を越えた活動を通して、相手の立場を考えて思いやる心を育む。	B 【達成状況】 肯定的回答は、児童が 92.2%、教職員が 95.8%と数値指数を大幅に上回っている。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施するとともに、児童会活動における異学年交流を通して更に思いやりの心を育てていきたい。
	A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って生活をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 「昭和小10の約束」に基づく全校共通理解のもとで、学年の発達段階に応じながら基本的生活習慣の定着を図る。 ② きまりやマナーを守って行動していることを、児童が相互に認め合う場や教師が称賛する機会を数多く設け、意識付けしながら実践意欲を高める。 ③ 校外でもきまりやマナーを守れるよう、地域や保護者と連携を図りながら、児童の規範意識を高められるように指導する。	B 【達成状況】 肯定的回答は、教職員が 95.8%、保護者が 98.2%と数値指標を大幅に上回っている。 【次年度の方針】 ①②の取組を継続して実施するとともに、児童会が中心となって、きまりやマナーを守れるように呼び掛けるなど、児童の規範意識を更に高められるようにしたい。
	A4 児童は、時と場に合ったあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に合ったあいさつをしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒地域住民 85%以上	① 年間を通して、児童会を中心とした主体的なあいさつ運動を展開する。 ② 学年の発達段階や実態に即しながら、相手に伝わるようなあいさつや、その場にふさわしい言葉づかいができるよう継続的な指導を行う。 ③ 自ら進んであいさつすることや、その場にふさわしい言葉づかいについて、家庭での指導を保護者に働きかける。	B 【達成状況】 肯定的回答は、児童が 92.2%、地域住民が 100%と数値指標を上回っているが、児童の肯定的回答は昨年度よりやや下がっている。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施するとともに、児童会だけでなく、全校児童が積極的にあいさつ運動に関わるような取り組みを検討していく。
	A5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① <u>児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。</u> ② <u>各教科の授業や各種検定等において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。</u> ③ 道徳の授業において、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、そうした実践に向けた意欲を高める。	B 【達成状況】 肯定的回答は、児童が 89.7%、教職員が 95.8%と数値目標を上回っている。 【次年度の方針】 キャリアパスポートも活用しながら①②③を継続して実施する。

目 指 す 児 童 の 姿	A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 における肯定的回答 ⇒教職員 90%以上 ⇒保護者 90%以上	① 児童が自分の健康に気を付けて自ら健康を管理できるよう、学級活動、体育、学校行事と関連を図った保健教育や日常の生活指導を行う。 ② 学校給食と各教科等との関連を図った指導のもと、栄養のバランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を図る。 ③ 危機を予測し自らの命を守り抜く行動力を育成するため、日常指導における安全教育を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。	B 【達成状況】 肯定的回答は、教職員が 100% 保護者が、93.4%と数値指標を上回っており、昨年度とほぼ同じ状況である。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施する。
	A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒保護者 80%以上	① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。 ② 家庭や地域社会との連携による体験的活動「昭和小インターンシップ」を実施し、キャリアパスポートを効果的に活用することで、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。	B 【達成状況】 肯定的回答は、児童が 89.7%，保護者は 88.0%と数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 ①②の取組を継続して実施する。
	A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 80%以上 ⇒教職員 80%以上	① 外国語活動・外国語の授業を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ② 外国語では、デジタル教科書等の活用を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。 ③ 外国語活動・外国語の授業に関する校内研修や授業を相互に見合う機会を充実して指導力の向上を図る。	B 【達成状況】 肯定的回答は、児童が 92.2%，教職員が 95.8%と数値目標を上回っている。 【次年度の方針】 一人一台端末やデジタル教科書等を活用しながら、①②③を継続して実施する。 コロナ禍で日常生活におけるコミュニケーションが難しくなっているが、外国語や外国語活動の授業の中では、英語を使って話す活動を多く取り入れるようにする。
	A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 80%以上	① 生活科、社会科、特別な教科道徳、総合的な学習の時間の授業や、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。 ② 教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は 87.8%と数値目標を上回っている。 【次年度の方針】 ①②の取組を継続して実施する。

目 指 す 児 童 の 姿	A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるように、授業において積極的にICT機器を活用する。 ② 各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 ③ 学級文庫や読書タイムの充実、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。	B 【達成状況】 肯定的回答は、児童が 92.2%，教職員が 100%と数値目標を上回っている。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施する。 ②については、ICTを活用した学校図書館の運営に努める。
	A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても思いやりの心をもっている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 体験活動と関連を図った道徳科の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。 【A2①再掲】 ② 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。 【A2②再掲】 ③ 授業や行事等において、地域の方や高齢者と交流する機会を設け、感謝や相手を思いやる心を育む。	B 【達成状況】 肯定的回答は、児童が 92.2%，教職員が 95.8%と数値目標を大幅に上回っている。 【次年度の方針】 ①②の取組を継続して実施する。 ③に関しては、コロナ禍ということもあり交流活動を実施できない状況にあるが、アフターコロナを見据え、実施可能な活動を検討していく。
	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 各教科や総合的な学習の時間における環境教育等を通して、身近な事柄から「持続可能な社会」への関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ② 東日本大震災や田川の氾濫等、災害の具体事例から学ぶ機会を設け、防災教育を充実する。	B 【達成状況】 肯定的回答は、教職員が 100%，児童が 90.9%と数値目標を上回っており、昨年度の数値と比較すると、どちらも上がった。 【次年度の方針】 ①②の取組を継続して実施する。

	B 1 児童は、自分のよいところに自信をもち、自己肯定感をもって生活している。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、自分のよさに気付き、いきいきと生活している。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。【A5①再掲】 ② 授業の振り返り活動を重視し、児童が発揮したよさや努力したことを自覚できるような自己評価、相互評価の場を設ける。	B	【達成状況】 肯定的回答は、児童が 86.3%、保護者が 89.7%と数値指標を上回っている。昨年度の数値と比較すると、児童は上がったが、保護者はやや下がった。 【次年度の方針】 ①②の取組を継続して実施する。 新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う活動の制限や行事等の削減により児童の活躍の場が減少しているが、その中でも児童が自己肯定感を感じられるような活動を工夫する。
	B 2 児童は、進んで運動している。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、体育の授業や休み時間に進んで運動している。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 楽しさと運動量のある体育の授業実践に努める。 ② 各種検定カードを活用することで、児童が進んで運動に親しむ機会を充実する。 ③ 外遊びを奨励するとともに、児童会（運動委員会）の活動などを通して、児童が様々な運動に親しめるようにする。	B	【達成状況】 肯定的回答は、児童が 95.3%、保護者が 85.6%と数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施する。
目	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 90%以上	① 特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、スクールカウンセラーや外部の相談機関を活用するなど、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ② 特別支援学級の児童はもとより、通常学級においても、必要に応じて個別の支援計画を作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 100%と数値指数を大幅に上回っている。 【次年度の方針】 ①②の取組を継続して実施する。

指 す 学 校 の 姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 学級活動、道徳科の授業等を通して、人を思いやることや人権を尊重することの大切さを指導するとともに、家庭とも連携して日常生活の中でいじめが許されない行為であることを繰り返し指導する。 ② 児童会が主体となり、児童が自ら「いじめゼロ運動」を推進できるよう支援し、望ましい児童集団の育成に努める。 ③ 定期的なアンケートや教育相談等を通して児童の心の状態を共感的に理解した上で、学校いじめ防止基本方針に基づき、組織的な対応によりいじめの早期発見、早期解消を図る。	B	【達成状況】 肯定的回答は、児童が 97.8%、保護者が 95.1%と数値指標を大幅に上回っている。昨年度に引き続き、いじめに対する取組について保護者や地域へ啓発を図ったことが、よい結果につながったと思われる。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施する。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上	① <u>児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。</u> 【A5①再掲】 ② 教育相談、アンケート、Q U調査等の結果を活用し、不適応傾向のある児童の早期発見と不登校の兆候が見られる児童に係る校内全体の情報共有を図る。	B	【【達成状況】 児童の肯定的回答は 97.2%と数値指標を大幅に上回っている。配慮児童等に対する教職員の「受け入れる姿勢」が、児童に良い影響を与えていると思われる。 【次年度の方針】 ①②の取組を継続して実施する。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 90%以上	① 外国人児童について全校で共通理解を図り、必要な支援やニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ② 児童が互いの国籍や文化の違い等を認め合い、尊重しながら生活できるよう、日常的な指導に努める。 ③ 外国人児童の実態や家庭環境に応じた日本語指導教師の活用を行う。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 100%と数値指標を大幅に上回っている。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施する。

目 指 す 学 校 の 姿	A 17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である。」 における肯定的回答 ⇒児 童 90%以上 ⇒保護者 90%以上	① 児童が生き生きと活動できる学校行事や児童会集会活動等の実施に努める。 ② 児童会活動において、児童の主体的な活動を重視するとともに、縦割り班活動を積極的に実施する。 ③ 授業や様々な活動を通して、教職員が児童のよさや努力を認め励ます指導を行う。	B 【達成状況】 肯定的回答は、児童が 92.8%、保護者が 99.4%と数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施する。
	A 18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 における肯定的回答 ⇒児 童 90%以上	① 教材研究に基づく分かりやすい授業の展開とともに、授業の中でつまづいている児童への状況に応じた支援に努める。 ② 朝の学習や家庭学習を通して復習する機会を設け、基礎基本の定着を図る。 ③ 分かりやすく楽しい授業を目指し、授業研究会や授業を相互に見合う機会を充実する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は 96.9%と数値目標を上回っている。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。 ICT を活用し、きめ細かな授業の展開や個に応じた指導に努める。
	A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 「チーム昭和」の合言葉のもと、学校の諸課題への対応や、学校行事の準備・運営等に、教職員が相互に助け合いながら一丸となって取り組むよう努める。 ② 教職員の協働性を高めることに視点を置き、教職員の得意分野や持ち味が生きる組織運営に努めるとともに、困難を感じる業務について気軽に相談し、助け合える雰囲気を大切にしよう。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は 100%と数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 ①②の取組を継続して実施する。

目 指 す 学 校 の 姿	A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。 ② 教職員の負担軽減に向け、学校の組織運営の改善や、各種行事等の実施方法の改善を行う。 ③ 学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は 79.2%と数値指標を下回っている。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施する。 また、打合せや職員会議の縮小、ミライム掲示板等の活用を行い、放課後の時間を確保する。
	A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 星が丘地域学校園ビジョンに基づき、自己肯定感を高める取組を重点として小中一貫教育・地域学校園を推進する。 ② 乗り入れ授業、教科分科会、6年生の進学先中学校訪問等を、目的を明確にして効果的に実施する。 ③ 地域学校園事務室や、学校一人配置職員の分科会を通して、学校園内の相互支援体制を充実する。	B 【達成状況】 肯定的回答は、教職員が 100%、保護者が 92.1%と数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施する。
	A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」における肯定的回答 ⇒保護者 85%以上 ⇒地域住民 85%以上	① 昭和小学校地域協議会（夢工房）を定期的に開催し、学校経営方針への保護者、地域住民の意見反映や、学校関係者評価の実施などを行っている。 ② 校外での体験活動時の安全確保や、授業への支援などへの協力、参画を得て、学校支援ボランティアを有効に活用している。 ③ 家庭や地域社会との連携による体験的活動「昭和小インターンシップ」を実施し、キャリアパスポートを効果的に活用することで、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。 【A7②再掲】	B 【達成状況】 肯定的回答は、保護者が 96.1%、地域住民が 100%と数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施する。

目 指 す 学 校 の 姿	A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者 85%以上 ⇒地域住民 85%以上	① 昭和小学校地域協議会（夢工房）を定期的に開催し、学校経営方針への保護者、地域住民の意見反映や、学校関係者評価の実施などを行っている。 【A22①再掲】 ② 校外での体験活動時の安全確保や、授業への支援などへの協力、参画を得て、学校支援ボランティアを有効に活用している。 【A22②再掲】 ③ 家庭や地域社会との連携による体験的活動「昭和小インターンシップ」を実施し、キャリアパスポートを効果的に活用することで、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。 【A7②再掲】	【達成状況】 肯定的回答は、保護者が 96.1%、地域住民が 100%と数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施する。
	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 毎月、各教室、特別教室、廊下、体育館等を、チェック項目に基づく安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③ 新型コロナウイルス感染症対策、インフルエンザ蔓延予防対策、熱中症予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。	【達成状況】 肯定的回答は、教職員が 100%、保護者が 95%と数値指標を上回っている。保護者は昨年の数値を上回った。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施する。
	A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にICT機器を活用する。 【A10①再掲】 ② 各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 【A10②再掲】 ③ 学級文庫や読書タイムの充実、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。 【A10③再掲】	【達成状況】 肯定的回答は、児童が 92.2%、教職員が 100%と数値目標を上回っている。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施する。 ②については、ICTを活用した学校図書館の運営に努める。

本校の特色・課題等	B3 教職員は、児童のよさや努力を認め励ます指導をおこなっている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「先生は、自分のよいところを見つけて、ほめてくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%以上 ⇒保護者 90%以上	① <u>児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。【A5①再掲】</u> ② <u>教職員が相互に、児童のよさや努力していることなどを伝え合うことにより、担任等が児童を認め励ます機会を充実する。</u> ③ <u>児童のよさや児童が努力したことを保護者に積極的に伝える。</u>	B	【達成状況】 肯定的回答は、児童が 93.4%、保護者が 96.3%と数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施する。
	B4 学校は、八幡山を活用した教育活動を通して、特色ある学校づくりを推進している。 【数値指標】 学校独自アンケート 「学校は、八幡山を利用した行事等を行い、特色ある学校づくりを進めている。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%以上 ⇒保護者 90%以上	① 八幡山ウォークラリー大会、山野横断持久走大会など、八幡山の施設等を有効に活用して実施する。 ② 生活科、総合的な学習の時間などの年間指導計画に位置付けて、八幡山に関わりながら学習する機会を計画的に設ける。	B	【達成状況】 肯定的回答は、児童が 96.9%、保護者が 97.6%と数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 ①②の取組を継続して実施する。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

本校では、学校教育目標の具現化に向け、「からだ元気、こころ元気、元気に学ぶ昭和の子」を合言葉として、『昭和の子元気プラン2022』を推進し、努力点の重点化を図りながら、教育活動の充実を図ってきた。また、保護者や地域と協働して、八幡山を活用した学校行事や、児童を主体とした縦割り班活動などを展開するとともに、認め励ます教育を推進し、子どもが楽しく学び、居がいのある学校づくりを目指してきた。

今年度もコロナ禍で教育活動が制限され、保護者や地域住民の皆様には直接学校の様子を見ていただく機会が少なかったが、宇都宮市共通の項目すべてにおいて保護者の肯定的回答割合が市内小学校肯定的回答平均値を上回るなど、全体的に高い値となった。特に「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」の割合は99.4%と高かった。さらに、地域住民の肯定的回答割合はほぼ100%で、市の平均値を上回っている。「学校は、『小中一貫・地域学校園』の取組を行っている」の割合のみ市の平均値をやや下回ったが、昨年度と比較すると6.1ポイント向上している。これらの結果は、教職員の日々の努力に加え、学校ホームページ等を活用して積極的に学校の様子を発信したためではないかと考えられる。

一方、本校独自の項目「児童は、自分のよさに自信をもち自己肯定感をもって生活している」「児童は、休み時間などに進んで運動している」の肯定的回答割合については昨年度を下回っているため、今後の課題として改善を図っていきたい。

また、児童の評価では、「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる」「教職員は、一人一人の児童を大切に、児童がともに認め励まし合う学級づくりを行っている」の肯定的回答割合が97%以上と高い値であった。児童の教職員に対する信頼が感じられる結果となったのは、本校の教職員が、児童一人一人としっかり向き合い、認め励まし、制限の多い中でも工夫して教育活動に取り組んできた成果と思われる。

○星が丘地域学校園では、「自己肯定感を高め、学び続ける力を育てる」ことを小中連携の共通目標として取り組んでいる。

「教職員は、児童のよいところを見つけほめている」の肯定的回答割合は、保護者96.3%、地域住民100%と今年度も高い値だったが、児童は93.4%と昨年度をやや下回ったので、より一層児童の意識を高めるような関わり方を工夫していく。

7 学校関係者評価

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、第4回地域協議会は書面開催となった。そこで、うつのみや学校マネジメントシステム全体アンケートの結果及び本学校評価書における教職員による自己評価結果を協議会役員・委員に送付し、学校関係者評価としての意見を求めることとした。その結果、次のような回答が得られた。

- ・とても良い。
- ・地域住民としては、妥当だと思う。
- ・A8「児童は、宇都宮のよさを知っている」とA10「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している」について、達成状況の高さを評価する。
- ・アンケート（A7）から、児童は英語に興味があると感じられる。英語が分かる・話せることで世界が広がるので、苦手意識をもつ前に慣れる教育をしていただき、方言くらいの気楽さで英語が飛び交うようになったら楽しいと思う。
- ・教育目標にある「やさしい子」「元気な子」「よく学ぶ子」がよくできていると思う。
- ・学校全体に活気があり、先生たちがいつも笑顔で対応しているのが良い。
- ・学校全体に活気があり、明るくいきいきしていることは、いじめ対策に熱心に取り組んだからこそとも思われ、教職員の努力に感謝する。
- ・A20「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」の数値の大幅な下降が気になる。
- ・全体的に教育環境の改善に取り組まれている。今後は特に教職員の業務改善、業務負担軽減に向けて、一層の努力をいただきたい。
- ・子どもたちが社会で生きていく上で、自己肯定感は重要なことであり、その点の前進をお願いしたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

全体として、市内の小学校の平均と比較して良い評価をいただくことができた。学校の自己評価や保護者、児童、地域協議会委員の皆様方から寄せられた御意見などを真摯に受け止め、次年度の方策について具体的に検討していきたい。

- ・次年度は、新型コロナウイルス感染症対策のための制限が緩和され、コロナ以前に行っていた教育活動がほぼ実施できるようになると思われる。そこで、八幡山など地域の教育資源を活用した教育活動等の充実に努め、特色ある学校づくりを一層推進する。
 - ・評価の高い項目については次年度も継続して指導していくが、教職員の肯定的回答割合と児童の肯定的回答割合に差がある項目もあるので、更に意識して指導にあたるようにする。
 - ・「いじめが許されない行為であることへの指導」については、児童・保護者共に肯定的回答割合が増え、特に保護者については大きく向上したが、すべての児童が安心して学校生活を送ることができるよう、児童の肯定的回答が100%になることを目指して繰り返し指導を続ける。
 - ・学校関係者評価の中で、教職員の勤務に関わる課題が指摘されたので、次年度は「働き方改革」をより意識しながら、更に業務の効率化に取り組んでいく。
- 地域学校園の最重点目標である「自己肯定感を高める指導」については、教職員や保護者の評価と比べて児童の自己評価が低い傾向にあるため、今まで続けてきた「認め励ます指導」をバージョンアップして「認める・褒める・励ます」指導の充実を図り、引き続き学校と家庭で連携しながら、継続して取り組んでいく。